

よくがんばった！感動した！！女子の1位は大会記録更新！！

2月3日 Vol47.1 で伝えたように、マラソン大会の君たちの姿は立派だった。

私自身も本校での初めてのマラソン大会だったので、どんな雰囲気で行われるのか、生徒の皆さんの様子はどうか、期待と不安が入り混じったスタート前だった。46回生の3年生はコロナや天候の関係で一度もマラソン大会がなかったから、今回は1名参加希望があったので特別に参加してもらった。私自身も高校生の頃にはマラソン大会があったが、長距離走はどうも苦手だったから、できれば避けたい方の人間だった。そんな私が今回はスターターの榮譽を得て、引き金を引いた。飛び出していく生徒、のんびり流れに従う生徒、スタート時点では、本気の顔の生徒は少なかった。

しばらくして、先頭が帰ってくる。男子は陸上競技部、女子はバスケットボール部の選手だ。通路とグラウンドの間のスロープを駆け下りてくる。グラウンドに入ってから距離がけっこうある。緩やかな右カーブを駆け抜け、加速しながらゴールテープを切る。上気し、艶やかな紅をさした頬と額と首筋に、汗を光らせて、清々しくややほにかんだ笑顔がまぶしい。男子は大会記録にはわずかに届かなかったが、女子は大会記録を大きく更新した。立派な走りだった。

やや置いて次々にゴール地点に辿り着く生徒が増えていく。最後の最後に力を振り絞って、グラウンド内でデッドヒートを繰り広げる光景も微笑ましい。私はゴール地点で、ゴールしてくる一人ひとりの顔を見ている。ゴールしていくどの生徒の顔も、力を出し切った自信と達成感で漲(みなぎ)っている。いい顔をしている。頑張りすぎて保健室のお世話になった生徒、こけてしまった生徒もいる。しばらくすると、ゴールする数が減り、間が空いてくる。本校の生徒が全員ゴールした後、とぼとぼと走りを進める生徒がいる。分教室の生徒だ。分教室の先生方のサポートはあったが、自力で完走したこともうれしい。

途中棄権せず、参加者全員が最後まで走り切った。長距離走が得意な人、不得意な人、好きな人、嫌いな人それぞれだが、その一人ひとりが行動指針である We keep on trying. を実践してくれている姿に、感動した。一人ひとりが自分の脚で走り切ったのだ。そして何より、全員がルールを守り、自己管理して大会を迎えたおかげで無事故で無事終了できたことに安堵した。「よくがんばった！感動した(涙)」

この大会も保健体育科を中心とした先生方・分教室の先生方の準備・運営、見学者の役割分担、PTAからの差し入れ、道路使用許可をいただいた飾磨警察、周辺の方々のご理解など、様々な方々のおかげで実施できた。分教室の校長先生も応援に来てくださった。感謝しなければならない。

特色選抜入試は県下第2位の高倍率！

2月3日からの特色選抜の受付が7日の午前で締め切られた。18人の定員のところ38人が出願した。倍率は去年の1.72倍から2.11倍に上昇し、県の特色選抜の中で第2位の高倍率だ。特色選抜への出願は、特に「行きたい高校」を選ぶことだから、行きたいと思ってくれている中学生が多いということで非常にうれしい。生徒の皆さんも「行きたくない高校」と言われるような高校には在籍したくないだろう。日頃の本校の取組、特に在校生の姿に憧れているという部分が大きいのではないかと考えている。普段何気なく通学したり、地域で生活している姿を案外見ているかもしれない。そんな君たちの姿を見て、姫路別所高校に行けば3年間楽しく過ごせそうだとか、自分が成長できそうだとか、あの部活動で活躍したいとかの理由で出願してくれた。制服がかっこいいという話は在校生の皆さんからもよく聞く。こうやって皆さんの日頃の行いで地道にブランディングして、中学生の「行きたい高校」として認知されていきたい。それは、学校のためだけではなく、本校を卒業していく皆さん一人ひとりのためでもある。

45回生からは薬学部に進学した者も46回生からは国公立大学への進学者も出た。この2・3月に関関同立や国公立大学を受験する生徒もいる。そんな数が増えるに越したことはないが、数は問題ではない。難関大学に進学することを端(はな)から諦めなければならない高校ではなくて、難関大学にも挑戦できる高校、多様な進路に対応できる高校として地域に浸透していきたい。

だから、1・2年生からもたとえ何人かでも難関大学に挑戦し、合格を勝ち取る生徒が出てきてほしい。高を括るな！まだ間に合う！！